

研究滞在記

氏名 松尾貞茂

所属 材料機能化学研究系 ナノスピントロニクス 博士後期課程 2年



私は今回、化研若手海外派遣事業の支援を得て、フランスのオルセーにある Laboratoire de Physique des Solides, CNRS, Universite Paris-Sud の H el ene Bouchiat 教授のグループにて短期研修渡航を行いました。私は博士後期課程より、H el ene Bouchiat 教授のグループから提供していただいたカーボンナノチューブを用いて実験を行っています。今回の滞在期間中にどのようにカーボンナノチューブを作製し評価しているのかを学ばせていただきました。加えて、渡航先研究室で、ビスマスの細線を希釈冷凍機で冷却し、そこで発現する超伝導性の研究を行いました。また、フランスで毎年行われているメゾスコピック物理に関する学会に参加し、自分が行っている研究に関する議論を深めるとともに、フランスの各研究室での最新の研究成果を知ることができました。出発前は1か月という長い間、単身海外にて研究活動を行うことに対して非常に不安に思っていました。このような貴重な体験をさせていただいた結果、異なる文化の中で研究を行い、議論した経験は自分を成長させる得難いものであったと感じています。

加えて、休日などにパリにてルーブル美術館やオルセー美術館といった著名な美術館で歴史的な美術品を閲覧することができました。とくにルーブル美術館は非常に広大で、すべての美術品を見学するだけでも3日をかけなければならないほどでした。こういった経験は自分にとって得難いものだった

と思います。

最後にこのような経験をさせていただいたことに感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。



渡航先で使用されていた研究装置。集束イオンビームを用いてタングステンなどの高融点金属の細線を作製ができる。